# 第2分科会

## 産学連携・地域連携を通じた大学教育を考える

### 報　告　者

高田　兼則　帯広畜産大学 生命・食料科学研究部門 教授
高澤　伸江　京都先端科学大学 バイオ環境学部 准教授
山内　　剛　亀岡市 環境先進都市推進部 部長
間﨑　涼花　京都府 政策企画部地域政策室 主事
田村　祥代　京都府 政策企画部地域政策室 協働コーディネーター
國府　美紀　京都府 政策企画部地域政策室 協働コーディネーター

### コーディネーター

船附　秀行　京都先端科学大学 バイオ環境学部 教授

〈第２分科会〉

# 産学連携・地域連携を通じた大学教育を考える

コーディネーター
京都先端科学大学　バイオ環境学部　教授　船附　秀行



## ○本分科会のねらい

産学連携・地域連携は、大学での研究を進める上で不可欠なツールとなっている。一方で、近年、大学においてアウトカム基盤型教育が重視されるようになり、アクティブラーニングが積極的に取り入れられるようになったが、質の向上には、学生エンゲージメント、さらには教員エンゲージメントが重要と言われている。その実現には、学生と教員が協働して取り組む産学連携・地域連携活動が格好の場であることから、本分科会では、そうした連携の実例をご報告いただき、実際の成果、さらには実施する上でのポイントや課題を共有することを目的とした。

## ○報告の概要

船附の本分科会の趣旨説明に続き、講演１として、帯広畜産大学教授、高田兼則氏から「帯広畜産大学および研究室における産学連携・地域連携の取り組み」と題した報告があった。帯広畜産大学は、十勝地域唯一の大学として、またその専門分野が地域の基幹産業である農業・食品分野であることから、地域からの期待が大きく、それに応える形で多様な方法で地域連携を実施していることが紹介された。例えば、「学生と地域がつながるまちづくり支援事業」では、在学中から卒業後までを見据えた学生と地域とのつながりの強化を目的とした「関係人口候補化プログラム」が実施され、行政、企業、地域団体等からの講師による「とかち学」などの授業で地域の現状や課題、将来展望について学び。さらに、学生の自主的な地域活動を支援する仕組みとして、「ちくだいらんぷプロジェクト」等が用意されている。また、帯広畜産大学は産業界とのつながりも強く、北海道の酒造会社がキャンパス内に酒蔵を建設し、学生も参画して酒造りが行われたり、学生の卒業論文や修士論文の研究成果が地元の製パン店の新規商品開発に活用されたりしている。そうした取り組みでは学生が社会との接点を身近に感じることができ、モチベーションの向上が図られ、効果的なアクティブラーニングが実現されていることが報告された。

講演２では、京都先端科学大学准教授、高澤伸江氏および、亀岡市環境先進都市推進部長、山内剛氏から「学生の地域における活動事例～亀岡市における環境保全活動を通して～」と題して、環境先進都市・亀岡市の環境保全活動を大学と地域との連携で推進している事例の報告があった。まず、高澤氏から、京都先端科学大学の全学共通のリベラルアーツ科目から専門の卒業研究までの科目をうまく活用することによって、１年生から４年生まで視点や活動内容を変えながらシームレスで環境問題に取り組む事例が紹介された。PBL 型授業において、１年生では、背景や課題を把握し、２、３年生では、ヒアリングや調査に基づき行政施策への具体的な提言を行い、４年生では科学的な視点から卒業研究に昇華させるのが典型的なパターンとされた。さらに、ボランティア活動を行ったり、環境関連の分析キットを産学連携で開発したりするなどの発展形もみられている。まさに学生エンゲージメントの高い活動になっている一方で、必修科目では、もともと興味を持たない学生にどのように積極的に関わらせる契機を与えるか、などの課題も挙げられた。山内氏からは、亀岡市の様々な環境関連の施策の中で、京都先端科学大学からの提言を積極的に採用し、PET ボトル削減に向けたマイボトルの普及のため、企業・小売店と連携し市内に 100 か所を超える給水スポットを設置した事例が紹介された。さらに、同大学からの提案に基づき、かめおかプラスチックごみゼロ宣言の周知広報のため、若者をターゲットにした PR 動画を作成し、インターネット媒体を利用した広報の展開もしている。さらに、亀岡市では、京都芸術大学との連携の下、市役所地下レストランを改装し、誰でも自由に交流でき、「環境」にも配慮した多機能空間「開かれたアトリエ」をオープンしている。今後は多様な業種の企業も巻き込む形で、産学官連携により多彩な環境施策を推進する計画があり、そこでは学生からの提案が企業を介して社会実装される機会が増えるとともに、進路を考える上でもプラスになることが期待できる旨述べられた。

講演３では、京都府政策企画部地域政策室の間﨑涼花氏、田村祥代氏、國府美紀氏から、「地域活動と大学での学び～京都府『学生×地域つながる未来プロジェクト』を通して～」と題して、学生が大学と離れたところで地域活動に参加している事例の報告があった。「学生×地域つながる未来プロジェクト」は、

NPO 法人などの地域活動団体と学生が一緒に地域を活性化するための活動を京都府がコーディネートするもので、学生に地域活動に関心をもってもらうことが目的の一つとされ、立ち上げ当初は、学生が団体の活動場所を訪れて実際に体験した。２年目は、コロナ禍のため、オンラインツールを活用した活動がメインとなった。そのことで本活動の裾野が広がることになり、３年目には、関東の学生も参加することになった。こうした活動において、日頃学生が触れることのない社会の一面を知る機会を与えることになった事例が報告された。４年目（2022 年度）は、この活動に関する理解度も上がり、府が仲介する頻度を減らしても､参加学生と地域活動団体がうまく協働して活動している例が多くみられている。そうした活動の中で、学生がコーディネーターとしての役割を担うようになったり、当プロジェクト終了後にも地域活動を継続する学生も育ったりしている。また、地域活動をベースにして、大学での卒業研究を行う、あるいは、地域活動を生かした就職を考えるようになるなど、大学での学びや就職に直接結びつく事例も紹介された。一方、地域活動団体も新たな目線からの意見をもらうことができたり、仲間が増えたりすることで活性化が図られていた。こうした地域活動を成功させる上で重要なのは、これに関わる多様な主体がお互いを理解するため対話を欠かさず、さらに、学生側もサービスや労働力を提供する意識ではなく、各主体が同じ方向を向いて協働し、一緒に創ることにあることが強調された。さらに、地域活動が学生の気づきにつながり、自ら調査、考察し、課題解決のアイディアを提案するという、まさにアクティブラーニングになっている事例の報告があった。将来展望として、学生が卒業後も地域との関わりを継続できる仕組みを検討している旨述べられた。



## ○報告に対する質疑ならびに全体討議の内容

全体討議の時間が短く、消化不良の面があったが、登壇者からは、豊かな経験に基づく、示唆に富む発言もあった。まず、帯広畜産大や京都先端科学大での地域連携のためのプログラムの正課科目としての位置づけに関して質問があり、帯広畜産大では、正課科目と課外活動の両方があり、京都先端科学大では、講演で紹介したものはすべて正課科目になっている、との回答があった。京都先端科学大では、近年リベラルアーツが重視され、そうした科目の利用もできることが補足説明された。続いて、山内氏に対して、学生の提案を行政で取り入れるプロセスについて質問があり、システム化された手続きはないが、学生の着想は重要と考えており、引き続き、PBL 型授業に参画させてもらう形で積極的な連携を維持したい旨が述べられた。京都府の三氏には、学生の新たな NPO 立ち上げへの支援体制について質問が寄せられ、学生向けに特化したものはないが、既存の仕組みを使って支援するようにしている、との説明があった。また、連携がうまく行かない場合の考え方について、山内氏からは、学生の自由な着想は重要で、たとえ実現困難な提案であっても、何かのヒントになることもあるので、できるだけ尊重している旨の発言があり、京都府からは、地域活動団体側の理解不足の場合は、趣旨をしっかりと説明したり、学生との仲介に入る密度を調整したりして、活動に対する理解を深め、関係改善に努めているとの説明があった。最後に、産学連携、地域連携の活動を成功させ、また効果的な学びの場とするには、学生、企業、地域、行政、教員等、すべての構成員がしっかりとコミュニケーションをとり、相互理解をした上で、共通の目標に向かって、協働することが重要であるとの認識が共有された。

スライド1

挑×選

2022 年度 第 28 回 FDフォーラム
第 2 分科会

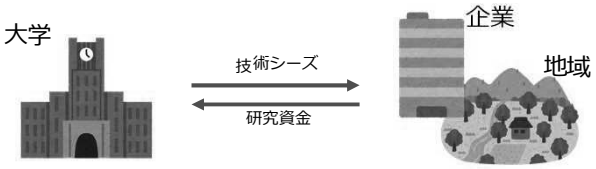
# 産学連携・地域連携を通じた大学教育を考える

2023年2月23日9：30-11：30

コーディネーター
KUAS 京都先端科学大学　船附秀行

スライド2

## 大学の研究面における産学連携・地域連携




メリット
- 研究資金増強
- ニーズ把握
- 知財の活用

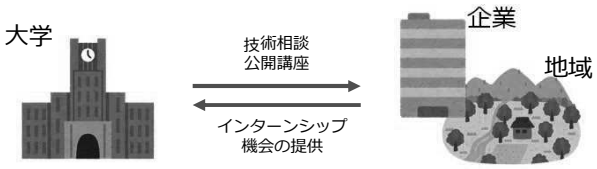
etc.

メリット
- 研究開発費節減
- 知見・情報収集
- ネットワーク拡大

etc.

スライド3

## 大学の教育面における産学連携・地域貢献




メリット
- 文科省方針（2008）への対応
- 教育の場の確保

etc.

メリット
- 教育機会の拡大
- 人材の確保
- 若者の発想の取入れ

etc.

スライド4

## 21世紀の大学教育の質的転換

「何を教えるか（Teaching）」 ➡ 「何を身につけるか（Learning）」
（中央教育審議会，2008）

＝

アクティブラーニングの積極的活用

アウトカム基盤型教育
（Outcome-Based Education）
（Spady，1994）

重要なのは「教員のエンゲージメント」

学生エンゲージメント重視教育
（山田，2018）

教員・学生が協働する
産学連携・地域連携活動の活用が効果的では？

スライド5

## 本分科会のねらい

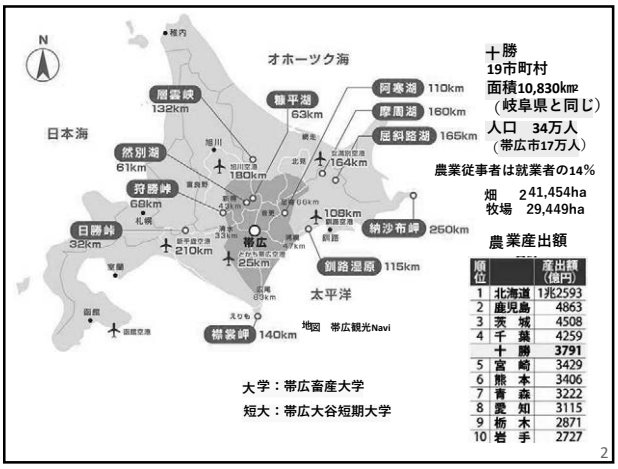
講演１　大学における多様な地域連携例，企業との連携
講演２　学生と行政の連携の具体例
講演３　教員が関わらない学生と地域との連携

- 学生・教員の参画する産学連携・地域連携活動の実例を知る．
- 教員が直接関わらない学生の地域連携活動の実例を知る．
- その成果（教育面，活動自体）を把握する．
- 運営上の課題を共有する．
- 教育に（も）効果的な産学連携・地域連携の実践方法を考える．

# 高田 兼則　帯広畜産大学 生命・食料科学研究部門 教授

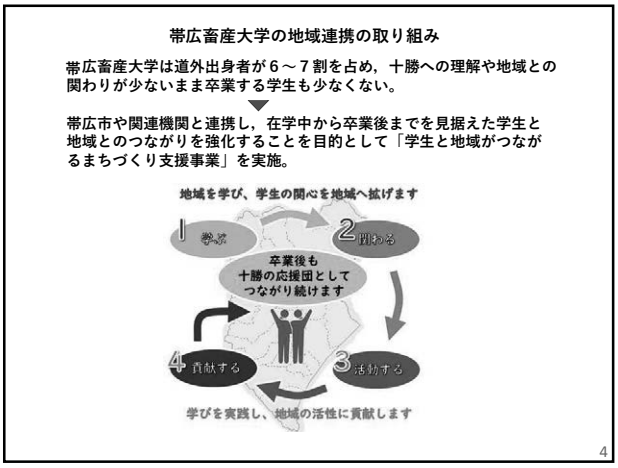
スライド1

スライド2

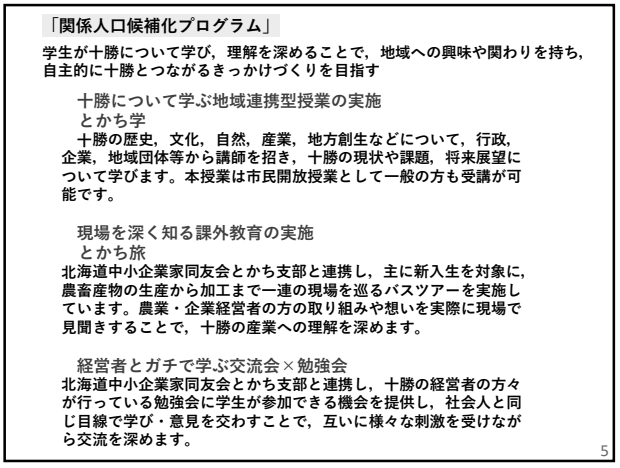



スライド3

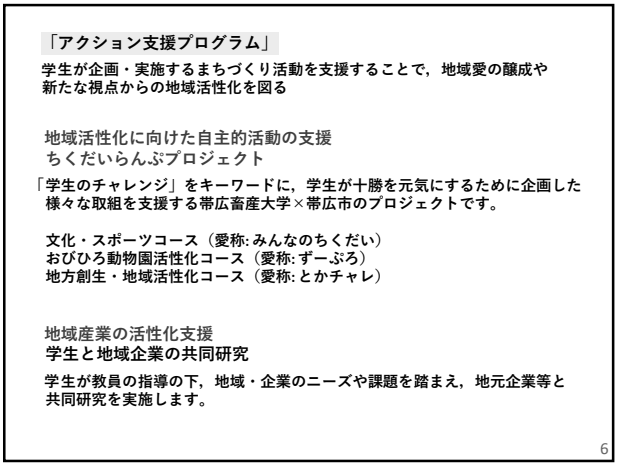
スライド4




スライド5




スライド6



スライド7

■地域をどんどん盛り上げる～地域交流

一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団との連携事業。
畜大学生サークルが主体となって文化やスポーツを通じて地域の人たちとの交流を図るイベントを企画実施しています。「熱気球にふれてみよう！乗ってみよう！」「畜大陸上部の走り方教室」「わくわくカーリング体験」「ダチョウの羽のストラップを作ろう」などなど、楽しい内容が盛りだくさん。

7

スライド8

■大学から生まれたオリジナル商品～サークル活動

畜大で飼育されている乳牛の搾乳は、学生サークル「うしぶ。」が担っています。入部希望者は半年間しっかり訓練を受け、365日、毎日朝夕5時から搾乳作業をしているのです。
こうして搾られた生乳は、「畜大牛乳」や「畜大牛乳アイスクリーム」として商品化され、大学生協や地元スーパーなどで販売されています。根強いファンも多いのだとか。

8

スライド9

本学農業サークル「あぐりとかち」が
農林水産大臣賞を受賞

東京六本木ヒルズで行われた農林水産省主催の「食と農林漁業大学生アワード2015」で「あぐりとかち」が、地元企業、農家の協力を得て、各大学の農業サークルに参加している道外大学生16名を招いて、初めて取り組んだ「十勝農業合宿ツアー」や10月から12月までの月2回、帯広の飲食店の店舗を借り、自分たちが考案した料理を提供した「サイエンス農（あぐり）カフェ」など十勝の農業の魅力を発表し、道内大学では初めてとなる農林水産大臣賞を受賞しました。

「とかち」のポーズをとる参加学生とあぐりとかちのメンバー

満寿屋商店とのハロウィーン向け商品開発(2022年)

出典）十勝毎日新聞

9

スライド10

馬介在活動室（帯広市との連携事業）
障がい者乗馬体験事業
適応指導教室ひろびろ　馬の総合体験学習

ホースセラピー

「馬」介在活動室が北海道福祉のまちづくり賞を受賞」

馬介在活動室の取り組む「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動」が、令和2年度北海道福祉のまちづくり賞を受賞しました。
馬介在活動室は平成26年に設置し、障がい者への乗馬体験事業（社会貢献活動）を中心に、障がい者乗馬に関わる教職員及び学生への技術指導（教育活動）、障がい者に適した乗馬の生産に関する研究（研究活動）など、精力的に活動を展開しています。
このたびの受賞は、昔から十勝地域で身近な存在である「馬」と「人」の絆をもとに、教育や研究といった大学の特色を活かしながら、障がいのある方への支援活動を実施していることが総合的に評価されたものです。

▲馬介在活動室の事業に協力する学生達

10

スライド11

■JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣～海外展開

2012年度から在学生・卒業生をJICA青年海外協力隊の長期隊員（2年）、短期隊員（2ヵ月）として南米パラグアイ国に派遣する「帯広－JICA協力隊連携事業」をスタート。パラグアイの小規模酪農家を対象に、家畜の飼養管理、衛生管理、繁殖管理の技術向上のための支援および経営指導を行っています。現地の生活水準の向上および酪農の発展、さらには獣医・農畜産分野における国際協力経験を通じたグローバル人材の育成が目的です。

現地の小規模酪農家での調査の様子。

現地の人に指導している様子。

出典）ワークワークとかち

11

スライド12

最近の取り組み

「学生の酒造りプロジェクト」 碧雲蔵（上川大雪酒造(株)）

本学学生が碧雲蔵において実際の醸造を現場で学び，自身の研究に生かすことを目的としたもので，同酒蔵の川端慎治総杜氏（本学客員教授）と山根桃華杜氏補佐（大学院博士後期課程１年）の指導のもと，学生が仕込みから醸造の工程に一から携わり，酒造りが進められました。

完成した本学オリジナル日本酒「純米吟醸 碧雲」を手にする
菅原雅之准教授、高山さん、酒井さんと川端総杜氏

※麹造り、酒母造り、醪造り、上槽、瓶詰めの工程を杜氏の指導のもと実施
（インターシップ研修の位置付け）

12

スライド13

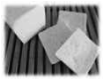
研究室での取り組み

**共同研究による新商品（2015年）（湯種全粒粉食パン、WA(わ)ドーナツ）を開発**

十勝産小麦を原料としたパンの高品質化を目的として、本学山内宏昭教授と（株）満寿屋商店との共同研究により、4月には本学大学院修士課程1年の松下耕基さんと満寿屋商店の職員により「湯種全粒粉食パン」を商品化し、9月には、松下耕基さんと畜産科学課程4年の寺山采花さん及び満寿屋商店の職員により小麦に大量の水を加え、おかゆのような状態にして炊いたものを製パンに使用する「炊き種製法」により新食感のドーナツを開発し、商品化しました。

湯種全粒粉食パンの記者発表

炊き種製法（特許出願）
「炊き種」 商標登録



13

スライド14

**修士課程食品科学専攻2年五嶋大介さんが（2020年）株式会社満寿屋商店との共同研究により商品を開発**

五嶋大介さん（修士課程食品科学専攻２年）は２年前の株式会社満寿屋商店（ますやパン）との共同研究により開発された，特許製法の発酵種「わさび種」と「炊き種」を利用し，生地種にマッシュポテト等を加えた発酵種を開発しました。

テーマは「甘くない食パンを作る」とし，種の糖分はマッシュポテトのみで，通常材料の砂糖は加えていません。また，開発した発酵種を加えることにより，グルテンが通常よりも強くなりもっちり感のある食感と口溶けの良さを実現し，新商品「トーストブレッド」をますやパンと共同で発表しました。

「トーストブレッド」は，ますやパン麦音で販売が開始されています。五嶋さんは「実際に店頭に並ぶ商品開発に携わることができ大変嬉しく思います。」と喜びを語りました。

五嶋さん，満寿屋商店 開発担当 佐々木さん，総務部 蛸井さん（左から）

14

スライド15

**本年度，学生が取り組んでいる共同研究**

- **株式会社ニップン**
- **DSM株式会社**
- **農研機構，山本忠信商店**

**包括連携協定**

- **敷島製パン株式会社**

Pasco 未来パン共同研究講座
とかち夢パン工房 Pasco

15

スライド16

**「とかち夢パン工房」**

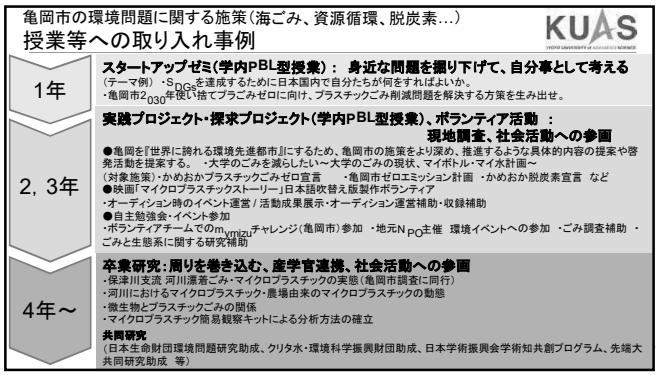
16

スライド1

スライド2



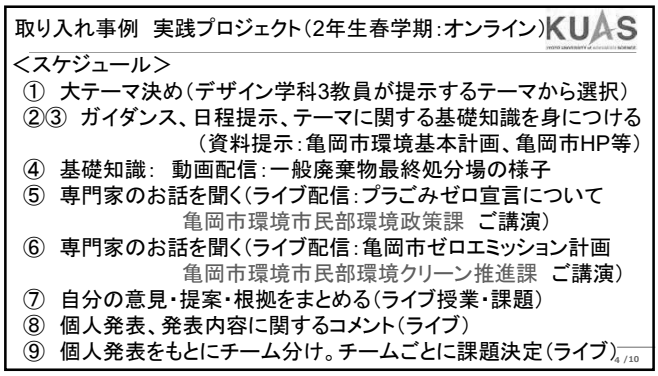

スライド3




スライド4




スライド5




スライド6

スライド7

## 関連する話題を提供いただいた方々

| | |
|---|---|
| 亀岡市ゼロエミッション計画 | 亀岡市環境市民部環境クリーン推進課 |
| プラスチックゴミゼロ宣言 | 亀岡市環境市民部環境政策課 |
| 京の川から世界をみる～河川漂着ごみの課題と地域連携 | 保津川遊船企業組合　代表理事 |
| 何度も使える天然ラップ～楽しくエコを | aco wrap（アコラップ）、KIRI CAFE |
| 環境ベンチャー、ごみ分別、エネルギー問題 | NPO法人木野環境 |

授業横断型：

※バイオ環境学部基礎科目（選択）

スタゼミ　－　日本語リテラシー　－　バイオ環境と社会のつながり

課題提示・調べ学習　まとめる・書く　実情を知る・社会で課題解決に当たっている人から話を聞く

0

スライド8

## PBL型授業中・後の学生の声

・レジ袋有料化に反対だったが、河川ごみの実情を知って考えが変わった（スタートアップゼミ：1年秋）
・亀岡市のプロジェクトに参加して自分の力がついた（実践プロジェクト：2年春）
・工学部と共同でおもしろい分別ごみ箱を作れないか（実践プロジェクト：2年春）
・（現場調査にて、小学校1年生の女の子が川ゴミ中のタバコを見て、「大人が川をズタズタにしている。このごみが、次の街をまたズタズタにすんだよね」と言ったのを聞いて…）タバコやめようかなって、一瞬思っちゃいましたもん…（卒業研究：4年秋）

・課題が多すぎる（実践プロジェクト：2年春）
・（「ごみの分別」に関する課題に取り組んで）学費払ってるし、大学がごみの処理してくれるのは当然と思ってしまう。そんなに意識高い人あんまりいない（探求プロジェクト：2年秋）

7 /10

スライド9

## 学習したことを活かして

8 /10

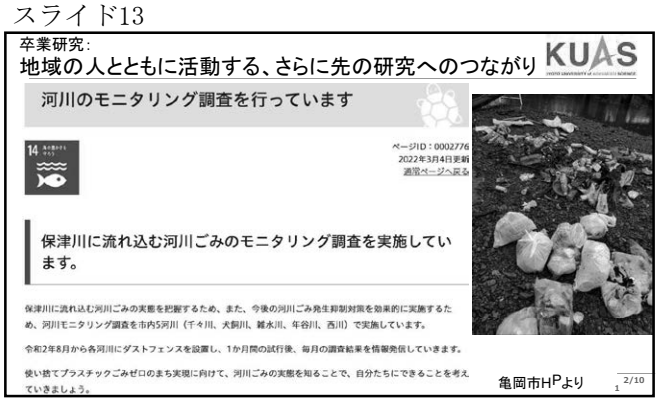
スライド10

スライド11

スライド12

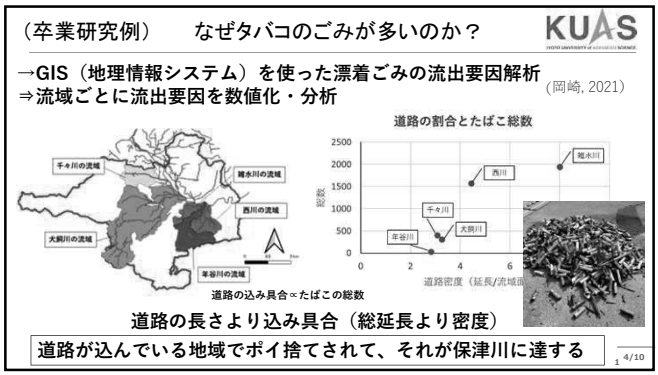
1 1/10

スライド13

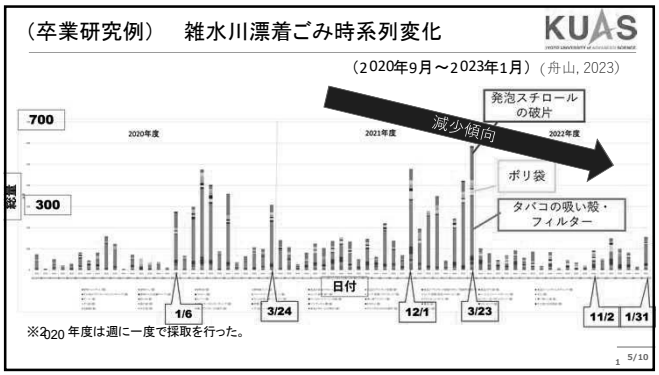



スライド14

スライド15

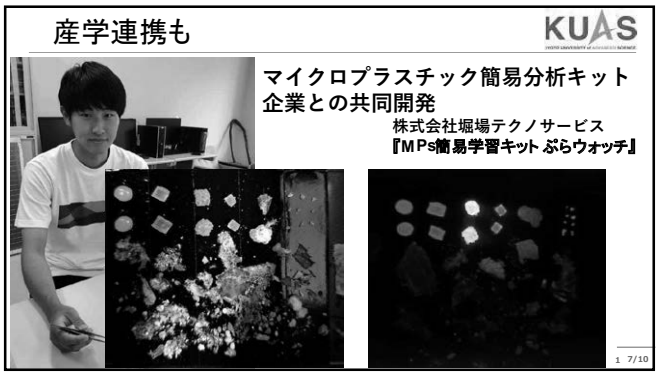



スライド16




スライド17

スライド18



スライド19

## 亀岡市での成果発表、ワークショップ展示
@地元NPO主催イベント（環境フェスティバル、映画上映）

KUAS

スライド20

## 学生と市政の関わりによる効果

KUAS

・4年間を通じた学びが可能。
1年生：取り巻く問題を知る：自分の選択で未来が変わることの理解
2年生：身の回りで実践してみる、自分を活かす
3年生、4年生：周りを巻き込む、産学官連携する

・学生自身のアイディアが市政やイベントで活かされる達成感
→学生の自信

・自分の大学の街を知るきっかけ　→　自分の街を考えるきっかけ
→市民意識の醸成（自分の街でも）

・市政を通じて人とつながること→社会の仕組みを知る
→行政への関心、地域の活動（大人）への関心
→行政・大学の街やNPO、連携企業への就職



スライド21

## 学生が地域に関わるときの課題

KUAS

・外部と関わりたいと思う学生はよいが、興味を持たない学生はいる。学生が自分ごととして関われる・学生を本気にさせる工夫が必要（→そうでなければ、行政への負担が大きい）

・興味のない学生も、“授業”なら取り組む。
→環境問題意識をもった市民の育成

・授業だけだと4か月。興味がある学生でも、大学だけだと4年間。その後も地域に関わっていくような人材の育成。

・大学（学生）が意見を言いやすく、試してもらいやすい“ちょうどよい「地域」の規模”がある。

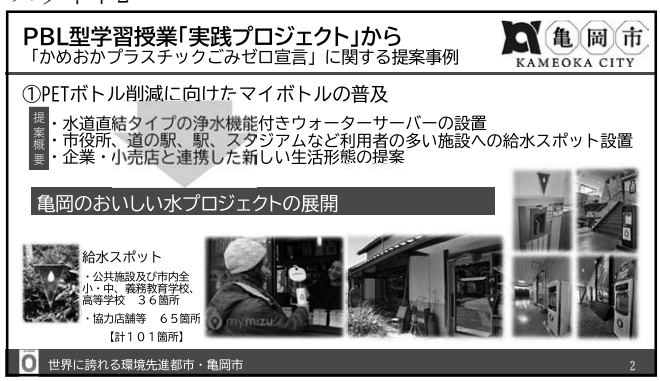
・科学的な協力（“理学的な”研究を市政にどう生かすか。）伝えるためにも普段からパイプ作りの必要がある。



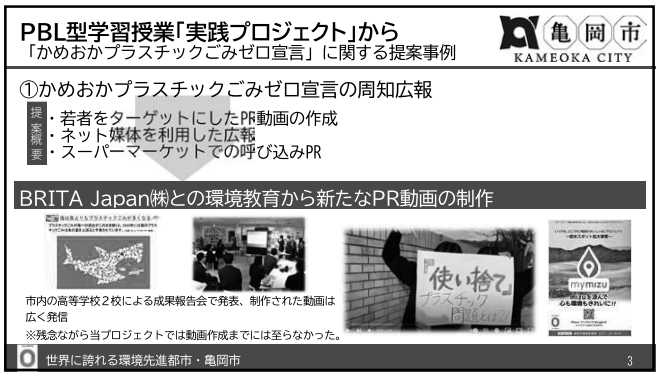
スライド22

スライド1

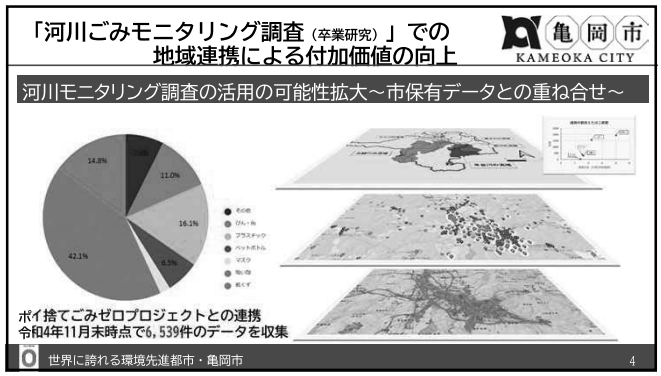
スライド2




スライド3




スライド4




スライド5

スライド6

スライド7

## 亀岡市の地域連携の発展事例

エコバッグ普及へ　～HOZUBAG生産拠点を整備(2021.3)～

古民家を改装したHOZUBAG生産拠点を整備。環境への取組が新たな雇用を生んだ。



スライド8

## 亀岡市の地域連携の事例

SDGsモデル事業として「開かれたアトリエ」をオープン(2021.4.14)

- ▸京都芸術大学との連携協定により学生にも参加いただき整備
- ▸市役所地下レストランを改装
- ▸誰でも自由に交流できる、「環境」にも配慮した多機能空間
- ▸様々なワークショップや展示を開催
- ▸9時から17時まで、土日祝も自由に利用可能

スライド9

## 亀岡市の地域連携の今後の可能性～産学官の連携へ～

スライド10

## 亀岡市の地域連携の今後の可能性～産学官の連携へ～

| 事業者名 | 締結日 | 取組内容 |
|---|---|---|
| ソフトバンク株式会社 | R1.10.30 | 教育分野、環境分野における連携 |
| 株式会社ユニクロ亀岡店 | R2.3.13 | 市内中学校における環境教育の実施 |
| BRITA Japan株式会社 | R2.6.30 | ペットボトル削減に向けた取組の連携 |
| (一社)Social Innovation Japan | R3.4.9 | マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組 |
| ウォータースタンド株式会社 | R3.6.3 | マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組 |
| 株式会社DESIGN WORKS ANCIENT | R3.6.22 | マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組 |
| 日本紙業有限会社 | R3.7.27 | 資源回収拠点の拡充等の取組連携 |
| タイガー魔法瓶株式会社 | R3.7.28 | ステンレスボトル回収モデル事業の取組 |
| 株式会社カネカ | R3.11.25 | 生分解性の袋の活用方法検討・研究 |
| 株式会社カインズ | R3.12.3 | 連携による環境配慮の取組 |
| 株式会社セブン-イレブン・ジャパン | R4.1.24 | ペットボトル回収機の設置、リサイクルの取組 |
| 日本環境設計株式会社 | R4.2.17 | ケミカルリサイクル推進の取組 |
| 株式会社斗々屋 | R4.5.13 | ごみを出さない暮らし、社会に向けた取組 |

間﨑　涼花　主事・田村　祥代　協働コーディネーター・國府　美紀　　協働コーディネーター
京都府 政策企画部地域政策室



スライド1

# 地域活動と大学での学び

～京都府「学生×地域つながる未来プロジェクト」を通して～

京都府 政策企画部 地域政策室
間﨑涼花・田村祥代・國府美紀

スライド2

## 本日お話するテーマ

1.「学生×地域つながる未来プロジェクト」の概要

2. 多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと 3.

地域活動と「大学での学び」を繋げることの重要性

2

スライド3

## 学生×地域つながる未来プロジェクトとは・・・

3

スライド4

## 京都府 政策企画部 地域政策室 府民協働係とは・・・

NPO等地域で活動する団体の支援

◆特定非営利活動法人（NPO法人）の認証・監督 等

◆地域課題の解決に取り組む非営利団体の支援
（「地域交響プロジェクト」）

スライド5

## 地域活動団体の現状

◆ 地域活動団体の担い手の高齢化・不足等により、自治会等の地縁団体だけで地域の課題を解決することが困難
⇒新たな担い手の参画促進や他団体との協働を推進することが必要

◆財源や人材確保に関するノウハウを持ち合わせ、自立した活動を展開できる団体があまり育っていない。

5

スライド6

## 地域交響プロジェクト「地域交響プロジェクト」での支援

地域課題の解決に向けた活動が継続して実施できるよう支援するプロジェクト

◆地域活動に対して、より多くの周辺住民から相互に協力が得られるよう「住民協働」の関係づくりを支援

◆住民協働による地域活動だけでは解決が困難な地域課題については、先進性や専門性を有する他団体や市町村、京都府等との連携・協働により解決方法の質を高める。

6

スライド7

## 「地域交響プロジェクト」での支援内容

資金面での支援

◆地域交響プロジェクト交付金

伴奏支援

◆パートナーシップ・ミーティング（団体相互や行政など多様な主体の関係性を築く場）
◆専門家派遣事業（専門家や先駆的実践者を団体に派遣してアドバイス）
◆Ｎ極アカデミー塾（継続的に地域活動をするための知識習得と実践のための塾）
◆活動の支え手との関係づくりセミナー
（地域活動の支援者となる「支え手」との関係づくりを通じて団体の組織基盤強化を学ぶセミナー）
◆**学生×地域つながる未来プロジェクト**
**（学生と地域活動団体の協働関係構築のきっかけづくり）** など

7

スライド8

## 「学生×地域つながる未来プロジェクト」とは・・・

京都府が大学生とNPO等の地域活動団体をマッチング

大学生と団体がひとつのチームとなり、
一緒に地域活動を行うプロジェクト
（令和元年度から実施）

8

スライド9

## 「学生×地域つながる未来プロジェクト」は なぜ実施しているの？

大学生が多いという京都府の強みを活かし、大学生と地域活動団体がひとつのチームとなり、一緒に地域活動を行う。

◆地域活動に対する若年層の共感を高めて、地域活動に**「新たな担い手」を呼び込む。**

◆地域活動団体がボランティア等を**受け入れるための体制強化**

9

スライド10

## これまでの参加団体

※順不同、複数年度にわたり参加している団体あり

〈延べ 19団体〉

| 団体／商店街名 | 団体概要 |
|---|---|
| さんさん山城 | 農福連携の事業所 |
| 青谷物工房 | 梅の栽培・製品加工、イベント開催 |
| NPO法人happiness | 子ども食堂、高齢者の居場所づくり |
| 認定NPO法人フォーラムひこばえ | コミュニティセンター、児童館、就労支援事業所等 |
| NPO法人ビオトープネットワーク京都 | 里山保全活動 |
| 認定NPO法人アンビシャス | ドッグセラピー、動物介在授業、ペットと防災啓発 |
| 白川まちづくり協議会／CoCoしらかわ | 地域活性化に向けたイベント企画・開催 |
| 花育ワンダーランド実行委員会 | マーケット・ワークショップを含む「花育ワンダーランド」の開催 |
| 森へのパスポート | 森林の魅力啓発、イベント開催 |
| NPO法人プロジェクト保津川 | 保津川の清掃イベント、「ほづがわチャリティ・ファンラン」の開催 |
| 右京太秦芸能人会 | 自主企画の映画制作、ラジオでの情報発信 |
| NPO法人丹波漆 | 丹波漆の栽培・PR |
| 籔の傍 | 間伐竹の有効活用、竹を使用したイベント開催 |
| 京都府地域アセット・衛星３次元データ等を活用したまちおこし研究会 | 地域の資産・人材・衛星３次元データ等の情報を活用した地域課題の解決 |
| 外国人女性の会バルヨン | 日本在住の外国人女性の生活サポート |
| 3upS | 新大宮商店街の魅力発信、イベント開催 |
| 新京極商店街 | ― |
| 亀山中央センター商店街 | ― |
| 保津・むらカフェプロジェクト | 古民家をDIYして地域のコモンスペースを制作 |

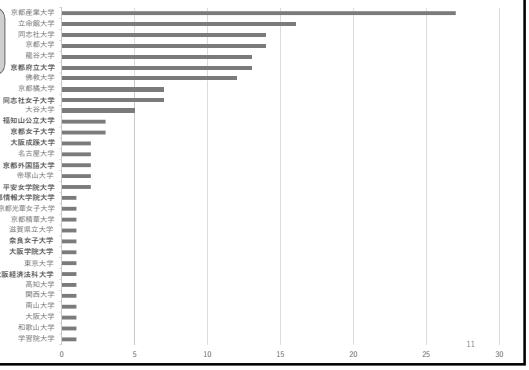
10

スライド11

## これまでの参加学生

〈延べ 31大学、158名〉

大学別
人数（人）
※複数年度にわたり参加している学生は年度ごとにカウント

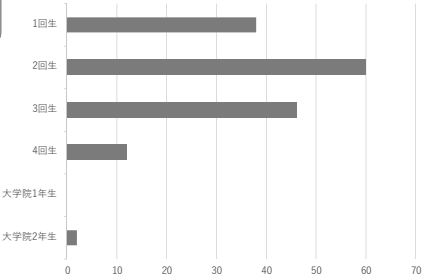



11

スライド12

## これまでの参加学生

学年別
人数（人）
※複数年度にわたり参加している学生は年度ごとにカウント




12

スライド13

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
**（令和元年度）**

◆２７名の大学生と６つの地域活動団体が参加

◆大学生が団体の活動場所を訪れて、実際に活動を体験することがメイン
（新型コロナウイルスの影響で、年度末には多くの活動が中止になった。）

◆団体が所有するSNS・ブログで参加学生が感想等を発信

◆令和元年度の成果報告ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r1_gakusei_houkoku.html

スライド14

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
**（令和2年度）**

◆ コロナ禍でも地域課題がなくなったわけではない！むしろ課題が多様化！

◆ コロナ禍でオンライン媒体が広く普及

◆ コロナ禍で遠出を避けて近場で生活する人が増加

SNSやZoom等オンラインを上手く活用することで、より多くの人に「地域」に目を向けてもらえる機会になるのでは？

14

スライド15

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
**（令和2年度）**

◆２３名の大学生と８つの地域活動団体が参加

◆新型コロナウイルスの影響により、大学生がオンラインで団体にインタビューして、その内容や感想等を大学生が本プロジェクトのSNSに投稿することで情報発信

◆「#１００万人へ発信実験」をテーマに、大学生の投稿を拡散させることで、同世代の若年層に、地域における課題や地域活動について、関心を持ってもらう機会を創出

15

スライド16

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
**（令和2年度）**

オンライン化でプロジェクトの幅が広がった！！

◆投稿の拡散のみに協力するボランティアを「指先ボランティア」と称し、多様な関わり方ができることを明示したことで、
年代や居住地など関係なく、多くの人が本プロジェクトに関わることができるようになった。

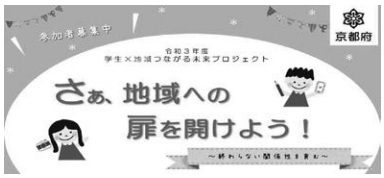
◆オンラインでの活動が可能となったことにより、令和３年度から遠方の大学生も本プロジェクト参加可能とする契機になった。
（令和元・２年度は京都府内在住もしくは府内の大学に通う大学生が対象だった。）

◆ 令和２年度の成果報告ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/gakusei_column.html

16

スライド17

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
**（令和3年度）**




◆ ３８名の大学生と７つの地域活動団体が参加

◆大学生が団体の活動現場を訪れる対面での活動と、Zoom等を活用したオンライン活動が両方実施できるようにした。
⇒**初めて遠方（関東）から大学生が参加**
令和３年度に関東から参加した大学生のインタビューホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r3_houkoku.html#arai

17

スライド18

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
**（令和3年度）**

◆ 令和３年度の成果報告ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r3_houkoku.html

18

スライド19

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
（商店街編　令和4年1月～12月）

◆ １７名の大学生と３つの商店街が参加
・３ｕｐＳ（新大宮商店街）
・新京極商店街
・男山中央センター商店街

◆ 対面での活動に加えて、SNSを活用した商店街の広報を行うなど、対面・オンライン両方に対応

◆ 参加学生の活動に係る交通費の補助を開始

◆ 「学生×地域つながる未来プロジェクト商店街編」のホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r4.html

19

スライド20

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
（**令和4年度**）

◆ ５３名の大学生と１１の地域活動団体が活動中

◆対面での活動がメイン

◆京都府があまり介入しなくても、団体と大学生の関係性の構築がうまくいっているチームが多数

20

スライド21

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
（**令和4年度**）

◆令和４年度のホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r4_1.html

21

スライド22

参加した大学生の活躍（成果）

1．本プロジェクト終了後も地域活動団体のもとで活動を継続！

2．複数年度にわたって本プロジェクトに参加し、参加２年目からはチームのリーダーとして地域活動団体・大学生・京都府の架け橋に！

3．新たな地域活動団体を設立し、本プロジェクトの受入団体に！

4．地域での学びを活かして社会に！

5．本プロジェクトでの経験と大学での学びを繋げて研究・考察！

22

スライド23

本プロジェクト終了後も地域活動団体のもとで活動を継続！
（参加した大学生の活躍①）

白川まちづくり協議会（CoCoしらかわ）チーム

◆ 令和２年度に本プロジェクトを通して活動に参加した大学生が、本プロジェクト終了後も団体のーメンバーとして活動を継続

23

スライド24

複数年度にわたって本プロジェクトに参加し、参加2年目からはチームのリーダーとして地域活動団体・大学生・京都府の架け橋に！
（参加した大学生の活躍②）

京都大学４回生　森下 航平さん

◆ 令和２～４年度に「NPO法人丹波漆」チームとして本プロジェクトに参加

◆ 森下さんへのインタビューHP

- https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r3_houkoku.html#morishita
- https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/gakusei_interview.html

24

スライド25

## 複数年度にわたって本プロジェクトに参加し、参加2年目からはチームのリーダーとして地域活動団体・大学生・京都府の架け橋に！
（参加した大学生の活躍②）

◆令和３年度（参加２年目）からは、チームのリーダーとして、京都府・地域活動団体と協働し、「NPO法人丹波漆」チームの活動をプロデュース

◆地域活動団体と大学生の主な連絡役を担う。
⇒リーダーの大学生の積極的な働きかけや意欲、大学生目線での多様なアイデア・提案が一つの決め手となり、「NPO法人丹波漆」は本プロジェクトへの継続参加を決定

◆令和３年度には多くの人が丹波漆について考える契機となるよう、チームで「丹波漆を考えるアイデアブック」（左下の画像）を作成

➢「丹波漆を考えるアイデアブック」PDF

https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/documents/ideabook.pdf

25

スライド26

## 大学生が新たな地域活動団体を設立して本プロジェクトの受入団体に！
（参加した大学生の活躍③）

３ｕｐＳ（サップス）

◆令和２年度に「森へのパスポート」チームとして本プロジェクトに参加した大学生２名が、活動時に訪れた新大宮商店街に関心を持ち、その魅力発信を行う任意団体を設立

◆商店街紹介ツアー等のイベント開催やInstagramでの商店街内店舗の紹介等を実施

◆令和３年度と商店街編では受入団体として、本プロジェクトに参加

◆商店街編では次期担い手募集を行い、新たに仲間となった学生と一緒に活動中

26

スライド27

## 地域での学びを活かして社会に！
（参加した大学生の活躍④）

同志社大学４回生　野末 涼音さん

◆令和２年度に「花背ワンダーランド実行委員会」チームとして本プロジェクトに参加

◆本プロジェクトで得た地域との関わり方や経験等を活かして、地元の行政職に就職予定

◆野末さんへのインタビューHP
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/gakusei_interview2.html

27

スライド28

## 地域での学びを活かして社会に！
（参加した大学生の活躍④）

◆地域の活性化に興味を持ったのは、高校生のときに受けた授業
地域課題について調べて市議会で提案し、市議会議員からフィードバックをもらうという授業があった。

◆本プロジェクトでの活動終了後、書籍で「本当に地域住民は地域活性化を望んでいるのか」という問いを見て、実際に地域住民の声を聴くことの大切さを感じた。

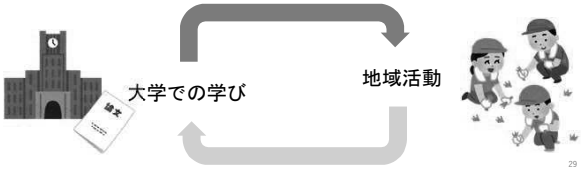
◆大学生が地域活動に参加することで、地域住民や地域活動団体では気づかない「第三者の視点」で地域を俯瞰することができると思った。

28

スライド29

## 本プロジェクトでの経験と大学での学びを繋げて論文作成！
（参加した大学生の活躍⑤）

◆大学で学んだ知識や技術を活かして地域活動に取り組み、活動を通して感じたことや経験を活かして大学の論文作成や研究を行うという、**大学での学びと地域活動を相互に活かすサイクル**を生み出すことに成功した大学生が複数育っている。




29

スライド30

## 参加した地域活動団体からの声

◆今まで学生の受入について考えたことがなかったが、本プロジェクトへの参加を機に**学生ボランティアの受入体制構築に向けて検討してみよう**と思った。

◆若い大学生が活動に参加することで、団体のメンバーをはじめ地域住民の方々がとても喜ばれる！**活動が活気づく**！

◆自身の団体が苦手としている**SNSでの発信**を大学生に担ってもらえて、幅広い層に活動を知ってもらうことができた。

◆**大学生の目線で自身の団体の活動を振り返る**ことができた。

◆ボランティアというと災害時のお手伝い等、「受入先の指示のもと無償で従事してくれる人」というイメージがあったが、本プロジェクトに参加して、**ボランティアの方も「一緒に協働して地域の課題を解決していく仲間」だという意識**が芽生えた。

30

スライド31

多様な主体と協働する上で大切にしていること

１．対話と協働

２．一緒に創る

31

スライド32

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと①
**「対話と協働」**

学生×地域つながる未来プロジェクトは、地域活動団体、大学生、京都府など多様な主体が関わり合うプロジェクト。

まずは様々な人と対話して、自分たちとは異なる立場・年代の主体でも、その考え方などを理解しようと努める！

「対話」を大切に！

32

スライド33

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと①
**「対話と協働」**

◆ 「協働」とは、共通する目標に向かって複数の人々が力を合わせて協力しながら働くこと。

◆ 多様な主体が対等な目線で意見を述べ、尊重し合う。

◆ 参加者全員が主体的に意見・活動する！
誰もが本プロジェクトの「主人公」！

全員が対等な目線で
「協働」することを大切に！

33

スライド34

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと①
**「対話と協働」**

立場や年代の異なる地域活動団体と大学生が協働することで
今までなかった発想が得られて、互いにとってプラスになる！

協働することで相乗効果が
生まれる！

34

スライド35

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと②
**「一緒に創る」**

◆ 京都府だけでプロジェクトを企画せず、大学のボランティアセンター等にヒアリング

◆ 本プロジェクトの活動が始まってからも、参加している大学生や地域活動団体の意見・ニーズを聞いて、日々プロジェクトを改良

みんなで創る
プロジェクト

35

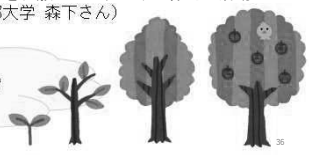
スライド36

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと②
**「一緒に創る」**

◆ 本プロジェクトでの活動を通して生まれた「芽」を大切に

- 「３upS」設立に当たっても大学生から京都府に相談があった。
本プロジェクトには大学生の地域活動団体設立を支援するスキームはなかったが、本プロジェクトの受入団体になってもらうことで、京都府が伴走支援
- 本プロジェクト内で意欲的に活動する大学生を発見！
次年度以降、チームのリーダーをお願いして、より主体的に活動してもらえるようにサポート（京都大学 森下さん）

小さな芽でも大切に見守り育てることで
予想もしていなかった物語が生まれる！



36

スライド37

## 地域活動と「大学での学び」

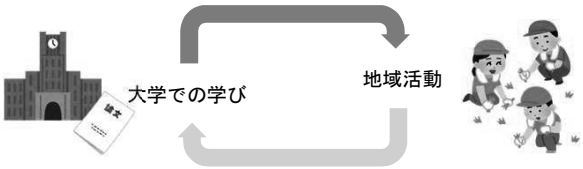
**「大学での学び」と地域活動の共通点は意外と多い！**

スライド38

## 地域活動と「大学での学び」

スライド39

## 地域活動と「大学での学び」




地域活動と「大学での学び」がうまく循環すると
思わぬ相乗効果が生まれる！

39

スライド40

## 地域活動と「大学での学び」（事例①）

【　京都大学 総合人間学部 ４回生　】の場合

◆「NPO法人丹波漆」チームに所属

◆大学の講義で学んだ「根本問題の考え方」の知識を活かして、
丹波漆の今後の在り方を考える根本的な問いを含む、
「丹波漆を考えるアイデアブック」を作成

◆地域活動の経験やアイデアブックの作成を通して感じたことを
大学での論文にまとめた。

40

スライド41

## 地域活動と「大学での学び」（事例②）

【　同志社大学 政策学部 ４回生　】の場合

◆「花背ワンダーランド実行委員会」チームに所属

◆過疎地域における活動での経験などを活かして、
大学で研究対象としている「商店街活性化における学生団体の
可能性」に関する論文を執筆

◆地域住民との触れ合い等を通して、「地域活性化」について問う
きっかけになった。

41

スライド42

## 地域活動と「大学での学び」（事例③）

【　南山大学 人文学部 ４回生　】の場合

◆「NPO法人丹波漆」チームに所属

◆「NPO法人丹波漆」チームで伝統文化の継承活動に実際に携わること
で、大学で研究対象としている「これから若者が地域文化とどう携
わっていくか」について論文を執筆予定

42

スライド43

## 地域活動と「大学での学び」

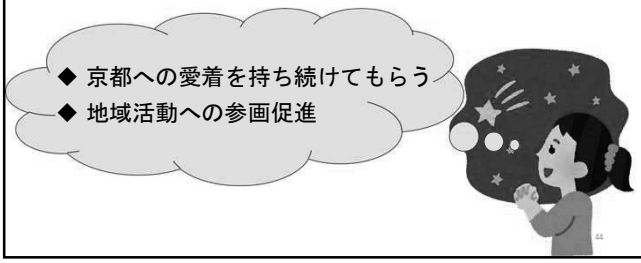
「大学での学び」を活かして様々な視点で
「地域」を見ることができれば
これまで見てきた世界とは違う世界が見えるかも！？

スライド44

## 大学卒業後も地域とつながり続けてもらえるように…

大学生が卒業後も地域と関わり続けられるような
仕組みを構築予定

◆ 京都への愛着を持ち続けてもらう
◆ 地域活動への参画促進



スライド45

## （参考）関連ホームページ・ＳＮＳ

◆「学生×地域つながる未来プロジェクト」メインホームページ
（メインホームページから各年度のプロジェクトに係るホームページへリンク可）
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/chiiki.html

◆「学生×地域つながる未来プロジェクト」Twitter
https://twitter.com/gakuseichiiki

◆「学生×地域つながる未来プロジェクト」Instagram
https://www.instagram.com/gakuseichiiki/

◆「学生×地域つながる未来プロジェクト」Facebook
https://www.facebook.com/gakuseichiikikyoto/

◆「地域交響プロジェクト」ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/index.html

スライド46

ご清聴ありがとうございました！